



門 凡 4
號 1168
卷 3



此の旅泊は元來此の地なり其の程詩ありて
思ひやりて爰に記す

能引普諸山海還 秋風飛塵奉行前
根伐木割爭濠地盛板擗雇手傳
宇上繕締如啄木橋下寺釘似鞞鞞
暮歸旅宿月滿屋 曉出橋場星殘天
臍弱丁男待晚月 元氣棟梁誇壯年
人步畫迹北若作 工匠夜這脫禪懸
數若樂渾若此 奉行鎌留誰可憐

不動寺

松波の一里半なる五十二文恒庵三十二文
人は十六文上りる次は山に於て

則以不動寺村小不動寺にて古言宗あり光仁天皇才四の

皇子如徳上人の草創傳漢三才圖會等小つらひは寺にむらじ
 七堂伽藍ありて衆徒多く未寺と數多あり大地廣し小
 兵乱小縁記宝付もろくなる今小迷成寺兵時未院疎り
 満泉寺村満泉寺おとて真言宗七寺あり是成未院疎り
 寺こよいほれりし佐佛の靈尊安置之始々天台宗より
 中比弘法大師位敷ちて真言宗ありと云ふは小衆徒
 編士多く一揆の地より成る後後謙信の爲小退却す
 兵子孫のこりり可麗小殿の坊平の坊小室院切行延村行延
 時長村の時長小室村小國室清真村秋吉村とあり行延村
 邊の城とて有同村吉成とて百世の家煙り大將の古塚とて
 大木樹まじりて大なる古塚あり又亦一社の山王権現ち不動
 寺号七社願吉村の延次とて百世以後の宮小七社行延村の柿
 比尾の宮小七社何と佐佛ちて今以後は成寺のかさひけり
 辻後ありしころり年中三女の祭礼小神輿の以幸人し
 あり又行延村小一ヶ所時長村小一ヶ所道とて小冷流り弘法
 大師の水こよひりしは是ありて拾丁二十谷水汲汲運
 と大師出りて堰りて之をせり

山中

不動ちの末寺なる三十丁又恒産二十丁
 人足十丁

魚して松波分字出はとて本所隔紙の道四里三丁下り
 山室より性年上り下り此終勤かぬより上下は次
 四村で勤と足へり下りの次字出は時長村にて
 次は道通一里丁なる奉文恒産主事人足十丁又下り
 十六東よりちり村より次は時長村を行延村中へは道通
 三十三丁中より四丁又恒産二十丁又人足十三丁又何也とある

かみ村や一宿と書せり

弘法の井あり

唱作のいこまこまのしりしり

文部

宇出津

山中一里十三丁にあり六十八又一宿と書せり又
今三丁なり

いづれは能利一の権助少く毎年祭りと取手あり之
高家と多く能利の地人祭りと書せり又行黄身人浪元
一軒村役人山早足地人の地地方小使入能利因奉行
两人在住是地人小者文者源宗二寺浄宗二寺法苑
宗二寺三言宗二寺一向宗二寺何成大地人又武神八
両社有一社白息姫の神社少く桐本より祭礼八月
十日昔くは子集りて奇祭なり又一社石原夫神社

少く酒造り所小ありは四神号東条少ありは山田少あり
祭礼三月十日小く是も立和山ありは振り近郷を集りて
かいらしり祭也

又二宅小三宿の城六南の山北崇りり温井二宅にて長家此
家老なりは小之節節目の老堂後して町人小船間なりり
別金匠町堂後なるをりり茶屋は堂後なる末家之
又黒沢与市所城跡員の端より所なりり長家類族
あり其比は黒沢長といひり今もは城六古木茂り其跡
を伝有かりと云ふ西の宮明神の社よりなりり東の端に
不高く小く凡京此地人又三宿城跡今畑小くあり
紫霜月比は漆り漆をせりた日と未だ天満の神の祭
日なりは清ぬと宿の主人同は是も小の御重廟をいりり
宿也其宿小宿は何れ許しりり山林は江の村淡路郡志

こふ所小書くわふの身有歟細致のて序奉ふ世小落安の
沙依是也別都志とみやこむるさきと書りは下此取及
小清五帝としすの白木松岡を堂屋とすよ方かの所上
徳のすれがしはふ今屋原成をたてて正浦の内小小焚
達とあえまれ之と高主のわや一取付すく高保集れ
方一行小村柳主とあけりし供れこゆ一草敷ふこえは
一とせ風新と流し南岳新子之瀨又は今勤任のいふり
寺とて某免經書と跡の折南おふと向る身中小かく借
仰の程も有りて改と改あふぬうき奉る折る庭茶れ
紅梅ふ成成とてをえゆりし

南岳新子の文字小書く風新とてよく信出の次偏小和元
のゆかふ小書海原の江梅書の内不也少く白ひまされり
海とて又本のむりし改おまひゆり

又海の新れ白ひや高の内小

又西の山小新れ山の山色

西岳

又王の赤り新しと

空府の文彦字新子重慶の寺小書信一
法以新小

一場のむしんや冬れ梅 西岳

而く小く赤新しと風吟有と一と事多しゆり
畧すといふもは南岳新子ふと一とまひ風新とて
重慶小りての恒過と有りて又小紀と
又北の山余石并世川柳田とく宇出許分三西星の同村あり
介浦所一行世遠なる柳田村十亭重不厚得り高子石
こりて所抄せ能別一と表なり加越乃言小競せと一万余り
りし時赤赤出はは柳田一行抄半途小毛纏お友茶每由
小赤者赤赤たらし有時りぬ山極ひんを平井推持り

あはれと入星遠三の不意候と思ひく回入りし柳田村に
宇出陣(お)くも小より宿よりを這ひ小居申出候に
小銀花乃守出陣の者候は程小備くも備小全派の存り
なり夫よりかの丁馬兼方一行共り松原へ小滅小家從
之に和舟をくゆりし類ひるし信小伴とてして將不
許と見え不六七や此の言説の天候候中し張を本馬小
鞍系馬車成小宗ていりありて口と引言候所家見え
不候見いり之敷の如し其外内傳の結構いりり山星
小居候は海船候立玉井百餘の上りし候はより小居
之れを拾ふ年恒く行見し小家依り此跡を人小回不
從小方之國の東小居の所を小住り書書とてく赤井
川廻小出く急内を這ひしをまはははせせれ八九又
五小居下流の石子能く書小居りて十餘年傳ひ出候

柳田之文と後世をいふ誠小藝小才とたをけりし候はれ
とははるごとく世に中乃盛言言流を能くといふ小
記す 又小光村と小城跡方は柳田村の北に三つあり
國光と云ひし郷士住りり 又波重村(行)小居は波重村の
宇出陣が波重村に二里ありし流と小凡京西におりし流あり
八王子権現有折ぬは神太皇孫院山王の社(御)候と云ふ
大宮宗之月立之山王宗同三なりは宗記と傳候宗とて
宿老百地一掃五百地一掃ありまふ百地一掃は三掃を神
兼小備小管ありりは人寺考く候は候人の公の事候
行勢之後六酒一滴よりなりし時目出ありて又外に
酒と云ふ盛歌ありり古刹又海舟院とて流宗
より寺とて又村一里奥小津月流津江て津あり首
大社中く或月流津りしよりは流橋は小津月流津

社名不明なり何れもいさく三社をいふ三社の名を
名づくる所は差便の名あり

三社の文を記すに小のまに記すに三社の名を記すに比は記すに
及ぶるに記すに三社の名を記すに三社の名を記すに
三社の名を記すに三社の名を記すに三社の名を記すに

い・う・ん 社の四よりそ 社の門 文書

波並

宇出漢が一里三丁なり又恒鹿三丁又
人は三丁又家数三丁なり

福原の後居と小百姓の如定寺と小法花宗の住持寺と
云禅寺有之向宗一寺と余恒鹿村也

又七海村十五丁有方念寺と福宗有道の寺と小山林村有

又七波村七海分十七丁有以同明和年中小杉川村の老小

若者も海中へ揚し貴石としてたれと云ふ小社と云ふは所

小と松の御社也

鶴川

波並が二里三丁なり又恒鹿三丁又
人は三丁又家数三丁なり

能事古姓あり可依ぬ所人境傷之別鶴川とあり長松岡

橋有以川原山田御泉山分三里流也

又高所小立原と海文社と近藤寺と乃氏社と毎年二月

廿七日七日八澤宗とそ氏分七海村小垣村小杉村太田村

古君村谷谷村鶴川村建七村一年小一初宛面立たり百姓

分小由は松宗事有は高馬此を供也廻信と宗記の口を

七村の志具も洋殿宗谷村の差と云ふ上流り谷中流り

麻下城ありと例直と云ふ所建り鶴川村小杉村と云ふ

は其の百何れを以て八五目小半途宗と信宗使の志小

出わ之是松七之早し傳とす夫今傳東洋殿の正面小唐りく
供祀之見分りく去年の河子とて傳切りて成りてきて
河鏡のちいさきとていなり其時向風此去也くひて鏡
鏡のちいさきとていなり其時向風此去也くひて鏡
此の後小中各いひく供祀之其後神梅宗長村系
捧也古之杯は河神神いむり七海今言地之新ありて
康社小寄せ其は橋村傳系といふ其の先祖は是は後
小三月九日河若ありて七海山橋木の宮夢移りて三年
十月七橋村小宮境ありては後小又若ありて今此は後
奉り其後此位下と今いひ得り馬場といふ是は後
又谷包打差先祖傳系同後取り也今上河子とて之り林
主梅系は中河方り又浄号寺を法衣系ありて寺は後小
白り成山方是ハ後河若ありて一編士の城跡なるより

は橋川乃里して不斗越の邊山を移りて二夜
のころなり

文
新
流
小
心
也
く
の
康
坊
の
系

又い橋川の山と山田の編とて付く多しは是を以て神道
とて味能持有り津村の山田村とあり村小本位村
乃八重なりとて一形而此の校成城境出せ今いさり後人
又い山田編小大地と云氣多の山神を以て平けり其後平けり
院村の内小く龍村といふ其地曹白村の東東寺といふ神小
付三つありあり別系金谷平けり八田大地の邊にあり
別系金谷の余も大元持の言はは又云氣多を法内河也なり
ぬ之元は龍名の山白此小方して院成村小鼻小は大地口
小ハ化尊大尊住く人今取冷諸事六天の摩王化ては云
へ下り近日は城なりとて也く小なりとて言し此城なりとて

直言宗方朝延し... 白雉年中園臺寺少てひる
ふの觀音の春日の作して靈應時勝之共外弘法大師の依佛多
有じつハ大伽藍あり今其礎十五六丁の間の溪より頼朝公
より寺村の寺附ありと同觀音堂再興状有又昌山重忠
奇蹟の石燈籠概不景時其所の大石のハ水跡の在り又頼朝公
并將軍家の廟小七丁殿小有近多の老小栗の樹あり
又建長三年九月若宮誕生は沂湯の賞小能也同法指は保心
若宮別白隆辨小夏言其光泰成は使小く下り給くと
東鑑小見くあり寺建なり誠小一ふ年た古跡を其地
其其小流記ありせむあり元亨釈小もは手記
此又は寺に住職隠居有て安永二年百八入定せり
其時近親群衆せりとも我も其寺ありぬり入定地
後ハ小寺未踏ありあり其塚今更殊勝小あり

葉柄や木味乃ぬけし 法の跡 文譯

前波

柳川一里五丁 柳川又恒尾三十二又
人は十六又家数五十軒計

い村小神月住豆收比右神社六所、大社稻荷大明神三額有
い社ハ金沢徳是諸橋權進氏神也、橋を先祖ハ村より出
者ハ祭礼景榎樂なり、其時乃留帳小有宝物品也

- 一 天ノヒラカ
- 一 タコシリ
- 一 静ノ面
- 一 血殊扇子

堀川三位康實瑞奉納也 貳三牧哥小
年毎 小竹の母々城跡

かきくもをきれとかいふこと

山のくふ白く花の香けく

あけ日おもありぬれ月

先い苗社林蔵在川はむろ甲村宮古く不揺川源公婦
兵乱このくれ住りふ縁中奉納ありしり

又法橋後を移る去西家有別権を在友と有代く
猿楽坊し不城道化小と有又向の出雲の淡色示法橋の

一本木として有は下小翁の西ゆりは面権を家此付室と
二り又は一本木榎形は板の突出あり淡小板突出

生ても木榎木成りしは木のく是と若榎の白比丘
厄の植し本よりいふ右木少く今ハ朽倒跡小社

は不別湯の砂淡少く介小なるまなくうく一本ハ
生れは地小てりいふ少も榎木小也

又宝曆六丙子年院を奉納ノ関ノ兼則守カ一振舞扇者

又次第系トイウ百世御室付頂戴ノ者有又沖波村也

六七丁有は所ハ鶴芽昔不合尊御誕生地之産此

宮と有古林新豊玉姫之産屋井と冷水化来小り又園
の宮ありの産所跡と小屋の間と有其外談訪住吉或始産全

守護神ハ神林は足り小土社有具時ハ産全世日し鶴芽とハ

海をこ小生是葉多る芽之と神書小有は是り鶴出橋川橋受川
此生名も鶴芽よ此名と有りはすは橋は系橋殿の岩なきあり

津代の少はなれ何世なるぬや

津もは産全のありと改しやし

きんぶんもれもくもん

文章

あしては法橋比羅ハ靈地也法橋の七思後とく有つ小ハ
天ヒラカトテ津代の系也也成也也也二つ小ハ増昌れ物

一年小交実の三三小流橋菊とて有四四小十月春五五
水仙野六六も咲七七五五小板実の出八八榎木九九本有一〇一〇小
神石有一一一一鳴一二鳴鐘一三の如一四是一五八甲村一六北一七三一八家一九此二〇後二一谷二二月二三小二四河二五傍二六
か二七く二八石二九と三〇七三一宗三二八三三土三四名三五石三六と三七て三八甲三九小四〇東四一每四二小四三火四四燈四五と四六石四七の四八り
は四九小五〇夫五一々五二此五三似五四て五五降五六り五七又五八甲五九小六〇腰六一小六二夫六三の六四此六五礎六六石六七と六八て
朝六九毎七〇の七一と七二さ七三し七四跡七五は七六石七七小七八か七九り八〇有八一面八二平八三成八四名八五を八六有八七甲八八小八九靈
小九〇也九一又九二仲九三波九四小九五も九六神九七目九八行九九豆一〇〇長一〇一尾一〇二の一〇三社一〇四と一〇五て一〇六額一〇七支一〇八か一〇九は一一〇神
許一一一八一一二諏一一三訪一一四大一一五明一一六神一一七は一一八境一一九内一二〇廣一二一し一二二は一二三我一二四推一二五本一二六の一二七大一二八本一二九有一三〇是一三一て一三二白
比一三三在一三四尾一三五の一三六地一三七し一三八平一三九と一四〇り一四一は一四二白一四三津一四四号一四五前一四六波一四七橋一四八の一四九社一五〇論一五一有一五二

又中、小差棟の白比在尾舊跡方是、行燈の古白子比在尾、
白比在尾、いしや長生して、百年の事、おれ、後て、八百比在尾、
二、り、又、中、新、川、新、王、郎、の、座、玉、橋、と、よ、の、原、の、り、ら、ま、し、し、
た、し、異、人、と、は、り、常、に、若、棟、園、白、橋、小、柱、を、給、傳、傳、は、有、

甲村

前波一里十丁、甲、六十、文、恒、尾、二十六、又
人は十九、人、甲、の、端、を、甲、所、人、

は村大甲小甲河曾良宮古甲として五ヶ村小なり、大村又甲
王録魚と名取、刀祿とて古、白比、前、是、乃、地、の、焼、浦、
一里海之甲比、大、口、と、小、船、一、人、舟、共、見、は、海、吹、出、中、く、是、と
それ、仕、換、し、有、海、の、地、光、ハ、焼、浦、鏡、目、村、長、湯、村、跡、湯、村
跡、日、出、湯、村、跡、の、三、室、村、は、人、は、後、り、半、道、人、小、口、と、上
船、一、人、小、三、分、光、之、三、室、村、太、田、村、跡、く、所、知、一、四、之、甲、村、所、口
まで、六、里、半、有、又、甲、村、大、小、海、一、舟、舟、人、入、江、あり、尾、湯、小、甲、小
にて、名、山、有、滅、小、甲、比、許、の、如、し、依、て、甲、村、と、し、り、法、本、後、り、
二、方、より、甲、小、之、地、頂、小、甲、比、古、の、神、社、立、修、亦、を、尊、葉、師、如、之、
け、山、は、腰、若、銀、若、く、風、京、京、中、を、是、し、か、し、又、比、小、か、れ、た、て
後、家、を、小、湯、一、舟、小、湯、積、事、如、し、

又城の高と云ふ所の平右衛門督といふ人の城跡を又いひの比ふや
い星堀矢訥言同兵衛督といひし公綿の言説の兵礼をいけて
住給ひ一所と宮をといは三人の塚を成す所の三子といふは
此のものの節目と云門を云人乃孫と云此小舟又宮の良
村を申す神といひ公依者は村坂東まで大百姓有は先鬼祖同
東公先と兵礼のまじり申す小河宮良村が今の所(家良)と
ちしと子孫ふて一村となり宮良村となりは者公義が城役
一牧御免 村家公御判物頂戴公元十年小舟なる者
より此村後山岩車村と云川尻村近し

甲子りの秋に也方良やま右の合より二宮同也
おれ船舟の風信を白く

詠免のよき満少をあらく 船小舟 文筆

山中

甲村の一里四丁余なる寺三又恒尻三丁又
人足十又此村激小山中

四丁所とれは方良と云人足おこしは、やうんははなを
海と云えわらし西の山也

川尻

山中一里丁余なる寺又恒尻三丁又
人足十九人

は村台縁小ありとあるる家良といふ 地元の許入は
此の伝言最之申は比良村に比良備持が中居出ると
終止しといふ入は下中居は川尻向られは下丁あり
常小舟も 伝言し舟良一被三六又といふは入はたは境
比如く四方小舟有し類いさき京人比良村川尻が下丁
比志備持と云ふ也 道風京もれとも 歌五

中居

川原が一里九丁余から六十丈俵尾二十六丈
人は十八丈一は村南村小村別あり

家敷三百五十軒ありは北と南北の端とふは村北古
鑄物所多くありは表御用相勤依金とて名物に依て
倫旨院宣下事なり也始て後多羽院の御旨倫旨下其時
披載せし所瑞風山として向村小あり別院の御像或免奉
毎年二月廿日と祭れは其比ハ文成持御所百室あり
倫旨と卒余通傳あり今も真田云々と改下とて清田
清行小南福光米田中濃森川中山宮崎小泉小林若園
神湯四柳とそありハ一秘後旧免の所中若原あり
中居村の右あり今も御所位小改下名代としは其の内の堂に
古田三三神湯金とて柳屋是而大は坊松とて大力の有
大約言棟柱別所及向の時中子傳とてい言御所所取

は中居小と三三先世ハ辨慶と云とて剛者のりハ中村
役相勤之又金法湯御所寒とては下ハたれ一老と意高氣高
とてり御所方小代一人在居あり又け而ハ今同も唐人正月秋
一掘分七十貫目汁有徳の太田之常此後施とて後皇共
成の御所御所の内小八丁あり而も其のわとてり
又真言宗ハ寺ありハ一真言宗多ありハ一寺坊と
いふ所あり

又神松六所大明神北村の氏神ハ伊豆姫の神社とて三月
中の甲子日七月毎日毎年祭礼ハ神主神松代ハ南村以神
山王祭礼日ハ神松の宮御幸ありハ振衣祭礼ハ
神主御代ハ西の出立の神明ハ増とて所小奥津姫神社
立所ハ祭礼ハ月十六日ハ山王神と持守
ハ中居の入りハ中居ハ海風の類名ハ能ハ中居風出

其其好ぬ... 清且岸とよ老運工... 毎年長湯へつりてすし

... 右の魂しきる... 又願川尻... 詠みよぬ... 魂も 細目ふりてく 世のう邦

七海

中君の一里下... 人足十人... 七海

... 七海... 又穴水の出張の跡... 又穴水の拾下... 新汁あり... 長家の城... 又小貝有是... 又長家の... 奇蹟所... 又寺より... 堂御厨子... あり近奉... 穴水所... 小白山... 穴水井

穴水所... 小白山... 穴水井... 穴水所... 小白山... 穴水井

所、磯の所の磯也又南の磯也小湊津那の津江を
大江のり又信連守護の福有といふ津那の事大に
又城小者より又信連守小者共之に何れも云々

乙ヶ崎

七海を三十三丁なる四十二文恒尾二十六文
八丁十五文 家敷四丁半なり

は所、入海片平砂を船に圍み使り能きを冬小なれ又船を
圍み番に占すり而水に夜をくお毎是行云々おぬぬ
源内とてかし家名を音姓あり

おぬぬありおぬぬの神々也

富洲ぬれれし時

文粹

は所、入海片平砂を船に圍

又新修村に乙ヶ崎(南)一里海(北)なる所は村に信家と有

一里塚の地は塚也其れ板の本ともいふ塚也其れは塚の
震初より有元氣誠信謙徳天下のやまらるる國之を而り
武威に振ふるなりぬれしはまも小入しこふ表の塚と云ふは
おぬぬ也は塚不思汝方より也其は新修村に二里由と云ふ
江東地なる閑地也しつゝ人家もぬれし麻沓村の内なる
新沓といふ又新沓の白濁を数十年前に住し近年毒瘡
と云ひりぬれしはまも新沓志願根不窮と云ふの浦也
其れ京より方角砂に留推集小者沓沓の浦といふ浦也其れ
麻沓村に乙ヶ崎が一里方の麻沓明津に磯也沓沓の風景は下
又は村の倉屋一里奥に山臺石と異廢大石有は名類いふるれと云
ぬれ古奇小

沓沓より 然も成さして滑く舟り
かゝるゝらゝ 却成りしは

曾福

曾福の二里九丁から七十七又恒尾は十七又
今更九丁又家敷六十丁也

け付の屋敷ありともえり池井山といふ富耳師の屋敷といはれり近
凡そ郡屋敷張明取放二筋の山少々地頂小大石あり形谷内の教言を
有又山北紫角にて同じ山少々先地割山といふ師の山といふ
高山光社細の又山少々

村も地割の約と教言ありともいふ小牧の
むりともいふ

さうらうくく 農取山取井中村 文筆

小牧

曾福の二里六丁から四十九又恒尾三十一又
今更十丁又家敷百丁中村有大夫也

むりともいふ小牧の約住り小牧の名者又中流村へ行小高尾山
とて二里九丁の約。人高尾山と誤りく高尾山成切名記

出取高尾山も史本抄の奇小

村人の名ぬ目とありく言割乃

山北新子ハのよけあり

今小牧の本陣林山之西の谷小唐行村教言近々の源山は徳兵
山少々もて近又水出村に公願しては高尾山の唐代断小切り
け付り池の路通村終小六七十有言教の屋敷といふ破小
横谷田原といふあり中小も横谷といふ二十丁有今小牧成て
け付り池の屋敷の地ありともいふ七尾城主高山守元推
乃人少ては山北家流の石浦小聚て人凡の廟宇成建く其以
哥道の末々月村に宗頼等成拓き時々の凡派有く水之程は
廟宇も兵火して礎の残あり其後百年色も金城の浅井
政右衛門入湯有折り近道有れば所凡ありは廟
宇跡あり一の行成り、宗小流の盆中小屋も月村石と号

石語加列本末此山初向乞語曰

子雖未見其名一觀其所記則思之於明石浦思
畠山於七尾城思月村見其山之嵐如聞其水之瀨
聲月如見其山之嵐翠彼石不來我心中我思不進
石邊而文字輪之能轉人思念實不可思議也

詩曰

混成靈地物在古跡痕班彷彿人九影依倚月光類
瀨聲直上嵐翠映窓門不待照頭月我愛似我視
是則鷹峰出山初尚廣銀出

以飛光里方亦他小異一也 畠山何某以下一
字建く時の風流有跡と一丈の柳の若き程
月花小見冷れて柳の那

中嶋

小牧小一里から三十八又極尾三十五又人足十九又
言の哉之是より麻考部

け村家数言到余其外教打者惣名能本と上可依り字所少く
高家も有る市として 師星所及戴百既者今十村没相跡
又常林寺と禪宗の寺なり 寺内廣く能く杖本者又能申河良
加志比古ノ神社は星下立給言の三子石比社者一丈社之能本比
綿拾六村の氏神之每来月廿祭礼之宝也四ノ中少弘法師
志字の法花作九卷方八卷方九卷方九卷方九卷の各方中
同作佛の遊楽師如來春日乃依の西其水也方初漢字も今能登
の於小高山現在高山祭神八様因貴人下元正天皇時始建之
こり高洲小摩小立給言の事書得り不知此神王能其到地
今不能也の清水丹後守也
又け村小橋立の事書得り古き者弘法大師の石信也

又此村名お小川不歸の字は清方又豊田町にて一里山入り
在津波の神社と立給ふ毎年有る百六方有ると豊田保
六ヶ村の祭といふ八ヶ字の橋といふ名本方

川崎

中津村の二十六丁なる二十文恒尻七丁
今定十丁と泉教七十軒計有

は村小田畑又秋部といふ古字百地なり

又豊原村大津の住居は大量寺といふ源宗ありは村小田の
海原河といふ二十丁有村に七とて十軒ありあり

は村小菅忠比古の神社立居一色く瑞現あり大社之祭礼有る
成り豊原保馬村の氏津之又此津村土方は沖小菅河といふ
名あり

豊原の山中或樹の時折に凡小音信る事聞ハ

山里や谷内り 少や田植云 文津

大津

川崎の一里十六丁から五十八丁恒尻七丁
人数十九人

は所秋来小ぬれ泥道ゆく大津川流として難すといふ古本示
強りありこころ成ふ一里の歩行あり又此村の
百軒の家は河佛といふ事もなく本傳有他所の者も同小伝と
也不思儀有れ核せば家小障り依て是を此本示
り又此村の雷田小田向の橋といふ名先石動小弘法
大塚の通りや字ありあり橋といふ名と金造といふ道
環奈水者俗小弘法の水といふ又大はる外浦物人堀松村
那二里有る千々金はといふ名は多し高浦谷といふ
り物といふ名は堀野田といふ地名といふ事有る

湯元所口小湯候。一里あり又定之湯書候とて本口
取小池也又温泉の湯の外葉師湯と辨天の小湯減小風京
乃地之病也一見あり所入雷の海上より一里余有
陸通り二里有宮候村松百村候なり宮候石塔は
公取の宮とて加紙紙の海と納て業とて松百村に松取
は村の海者て凡京之又海上小波等候有て之取の若手又
松百の地の額とて名あり

龍神いせの里りの代り
海りいせせれ格れかむひ流

一又い海の奥の池は村をり村の神は水神大石也
は海をり給ふとてり小島の像石とてり奇瑞方則
田原候所池の池名あり見たり
又田原候飯心とて五里余有西海也とては還者徳意の海道也

一り田原候町村に五丁に村小住者明神の小社有助心
百世の将也之池也者明神の宮相向の池の石也之池
傍にいやり又羽折村に續け村をり彦の津江江流小水
神金の跡といふ又西三場村の角に山あり小雷神の本道
とては花宗坊日像上人因基村也は寺小日像上人書給ふ題
目の石碑ありは石塔のいせ水もたき飲め病癒いやり
外り依て寺あり今も石塔而も半ありといふも是月乃
文字あり其奇瑞者尊とて是も不付宝あり湯谷也
小ありゆ寺い寺の開基は加賀屋馬北たつとて二宮
村あり石動山日像上人也は作とありありい兩人
の者上人の若小慈念の御方去今も二宮村小孫方
あはれ寺小治あり救ぬとて考へり
湯の事とては所

又良村八田原澤に次いで下村あり又恒尾十文金三
三又村小山田寺と名を言宗之又能登船神社は村小立路山
毎年十月廿七祭礼しく同村愛宕の社に伊勢より打小市樂と云
可成毎年十月廿七の夜世の刻に社に閉じし神祇の背負奉て
後より小出に交り谷界して京越と違ふるさて愛宕山
社移し奉りおまの祭礼に神主清原丹後守と名動山神事東市
其上麻治部林と韻頭しく村小居住を又丁宮村祭の務は宮小
一宿をも之又良川村の金丸村にて一里三丁から五丁
恒尾寺と又金三七也とい村小精の宮とて毎年祭礼に神木
乃夜一人新澤と打也い後河小本小喰入く木の宮と成又
沢の穀言とて高れ所がけ穀言の谷向小有て念ねぬ也昔
此世の時人流世住し不とり又後の小宗教か山とて小路の江
上成り下りし他系の地有り味と改れハ上村村領村に恒尾松

村小出と之又恒尾松と名も中山村瀬谷一也之又小路の恒尾と
行小宮一也人又い村大町村半乃大町小小山江近田原松
と古江百姓あり又氏神小門主の神社立治部神事務浦村也
つり又金丸村の恒山村中くつり一里三丁から四丁五丁恒尾
九年人受れ之と名も能登海道とい

愛宕山が羊方凡雅小く玉も也也
詠詞の伝説と流の言にしく已る日と
ありぬお年かくるん
場羽分あり洞の朝俣ひ
乙名の名残りの川、扱又
か年
文輝

所口

田原松の二里三丁から八丁又恒尾五丁
人は四丁と云ふなり

以新口能登山の國府より諸高貴の同登りて能登

の地之丸家敷六丁物といふ今ハ字別有町奉行一方在住は友
六人町年廿五人五所賣一人根元一町町付足徳中人坊奉行
是ハ口破取奉行是等山ノ足徳中人是字出山其地
其外古町人小水足屋は是等者ハ所新倉出ノ子所カ
ハ林本無地等といふ所ハ所陳屋と有又

利長公御城跡小丸山といふ小カ其時御城下今存中と有カ
漆を依屋といふ古町人カ又源宗九寺浄宗九寺法隆寺
拾五寺是ハ二小カの法隆寺の寺町カ其言宗九寺中
少カ妙夜院小カ法隆寺とて磯の出湧小カ有カ地言法隆寺
凡宗といふ也一山前法隆寺又向の山ノ意宗石寺といふ
カ京地カ又一向京拾五寺カ内二寺カ西方の
院カより又ハ宮カハ氣多本宮とて能登生團
玉の神社カ一宮カ神一カ所カ毎年二月

中ノ申の日一宮カ八里神輿ハ幸カハ所カ
大社カ一カ神主家カ八日
一玉一の宮園谷寺カ此カ立所六十六カ納経集小納経祭ハ
毎年四月申の申カ一町中神輿カ拾五カ立所カ
て群集カ大衆人又毎年正月カ一祭カ町中カ子カ
哥家カ一カ振カ一カ其カ六月申カ水カ月大振カ
ハ年法川小カ有カハ依カ一カ又西東カ
流カ一カ俗小ニ又ハ山ノ根カ一カ向カ事カ
如カ一カ物カ一カ令カ一カ度カ一カ小カ一カ又山ノ屋水カ一カ
其同の洞中カ一カ水カ一カ水カ一カ水カ一カ水カ一カ水カ一カ
一荷カ一カ汲カ一カ水カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ
同一前カ一カ其カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ
日照カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ一カ

とせすといふ其上の山は京都の京也東山といふ

茨子年汲といふ一法くすむ文障

史記乃水の流せ又一一記

け所口名お多し名は数多の中少し羽衣ゆては松尾集
の東方其お登船お果考れの使らけ自由自其國府く
むり七尾云し松尾の古城の麻麻は一之則松尾お城七尾
乃城とて六尾云有て南の尾尾尾松の尾虎の尾竹の尾柳の尾
竜の尾松尾有依り七尾の名有いふ此國府といふ世といは位り
神守多天皇は源氏頼朝とて居城を又今近衛の院の時
此城の松尾源澄といは位り其後後醍醐天皇は山守中興院の少定清
國司として居住り又後花園の院は山守永亭の比高山城は居城し
く万水一毛源抄といは所ををり物と正親町院の山守
松尾公徳川一國守守小入といふは七尾の城下といふの故也

繪ひく所と改名有て登岸又へ無荒の地高不動といふ所の

哥

後代守松尾山の 石をれ葉乃

わくとも ばらうし 五の万代

又い松尾の城お小不日後の事考は也小古國者けの諸屋兵束とて
古守而姓考は者以城おこ畑田おの孰い作けり乃 小守は城お小
敷十多ゆ大根考は木と伐りせり小一介く小血流せり
松尾兵忠て伐りあゆむといふは兵束國と其すといひ山
をて半途まで俄小空雲いり空虚に航行也して城お麻
へ所いぬ故未廢小成く花をるをりなをき強之又其後中小
大根考は自尾と根よりて倒せし其根考は今根いこるなり
校は下小成く其根考は人考は今小多いなりすは是御守保
年中此より未代よりいれ怪異考事不記小といひ爰小記

けりハ二戸村の氷明之と云ふしおといひていりし流の
地ハ駿目八家の庄として今村あり小今ハ世々村ありぬき
叙書曰大宝二年乃かけ強自能登流來謁云常臥
雪裏澄名爲卧行者云いぬせりの行者ハ流の産之母の
住り不嫁也浦として今其塚有はせり此行者ハ善眠
外して異神者常に住り所也里村といひ村小流流とて
流者むし一奈不守とて寺有ぬせりの寺也今寺あり又
之章叙書曰隆正海濱船飛鉢乞供云是ぬせりの行者の
供成を流の子流行て沖漕く船小至り若供む以施す
船小必流者依人恐く流不布施せりといひ流の子至
せり此と流流村といふ又言出流村といふ是流と流の
流小村して是と流流の流小とていふ得りといふ流
といひいれ能是國一公の彼名の流いといひていひの
取違ひなり

實といは流京と小くいふも月か世せず
文解

おのむ多き、流の浦半の甚の色

又野流村ハ流流而して流るれ場之高き石有流の地して石
高ハ向田村といひ村斗之又向田村小侍夜忠呼の神社立大社なり
此神神八幡宮也むし一此流土月言小坊小流流村の三節
こよ百姓の前成平石とて有は上へおしせの又今も乃山宮
若神一奉れ依て蛇の妻といふ祭礼有又りこ今れ社地
一移り多れといひ社小宝物也なり
月星のむとて有は流れり此と月星の宮とて有宝鏡此
鏡一枚鬼用といひり又此所も牧の神物あり今も其跡と
牧小の流流名も出て 頼朝公（推く）池好も若付く一説あり
し一其時小頼朝公下とて判款のお一通取次権宗も此

別荘の遺状一通あり、跡小水かきかて常小池小住り村人
不三伝小忍ひ言の跡小傳頼朝毛と願し石し池を好
ふ小池好と申すなり、是小の宝付神主毎本氏小有
又小村小坂東の古屋とてむう、是小の大男とて異人住し洞有
別荘村行先坂とよとて大男の女の跡石有又いさむむ
坂右伝とてとし踏見石其外礎礎あり、二軒伽藍とて
小右あり今跡中、小一四宗捨下寺ハと申す言宗成、こい
いふふと外行先高跡とて殿多々有しと云ふなり又
跡跡村は田村と、城跡有清知れを頼目村小當二ヶ十村
役の老あり又三ヶ村ハ、磯山ハ、腰小洞ニ有、船中とて踊り
あひ、そは洞小入く之の、伝石右と、いふ村小神明宮の記
法書小、えかむ、小神明之、則伴夜々神社、神祈、日向比
八幡別社也、通村高茂のほしあり、名とす別村ハ、テ

所中小、ワイ村ハ、人鳩の地、木下村と、こい、今拾ル、村共故ハ
寛永年中の夏成、小小浦村を、地場、長治と、同小有し、こ
ハ村年貢あり、一村といは、清く、船小のり、行方、く、なり、人
其比娘一人、隣村神湯、奉公、小、と、有、て、申、ひ、言、は、る、云、む
中、女、娘、合、息、一、て、跡、跡、海、を、登、敷、不、得、よ、め、れ、集、村、中、に
画、と、り、す、れ、半、途、より、取、下、房、の、内、小、船、お、と、れ、言、は、せ、悲、強、く
い、女、の、子、孫、今、小、飛、渡、小、浦、を、と、り、又、小、浦、一、村、の、老、ハ、橋、渡、の
國、ハ、つ、り、今、蒲、原、小、浦、と、て、別、傳、焼、く、者、こ、い、り

道の路の旅夜
風の入り戸に、鳴方や浦あり

又新口近々小石城村と、小石村改公の、墓所有、此、傳、新、口、具
泉寺小あり
又、辰、橋、村、の、山、名、と、音、此、の、京、蓮、如、上人、の、小、友、堂、の、初、号、忌、日

小川張方又有江村村本林寺より小坊小聖徳太子其像有又村
実盛の塚とて有云此得り也之れす天祚の京村おとして有

二ノ宮の下の高嶺の摩りて聖廟小治く

松より一木の下の高嶺の下の紅葉

二ノ宮

折口二里七丁 本らふなり又地蔵 五十二
人足四丁二丁系親百三丁丁

又二ノ宮川がけ川上右部山谷水一筋芥川村山谷の水流て
下して川尻川と云田原橋の合へ入らば村小天日菩薩の神社
立峰加賀尾の北に下りて百姓古より有又右部山二ノ宮の
一里半有一山の高山なり一は六里高くと云天漢石と
号り今清室の前小方泰澄大師巻九二年登山以来ハ石
物て山背小依て石動きよ本社仔細流岐比古神社是之

且社権現也と虚空蔵土而觀音正觀音又一聖名勅額加羅不動
倭漫三系今小方天知天台主勅額卷九年中之草創用卷泰澄大師
大師以徳太徳之公姓ハ三神氏也前麻生津久又安用之ノ母住野
愛重入懐而身孕白鳳五年六月吉生十四歳冬於越知峯
岩殿洞中自薙髮食松葉積年得神通力能登卧出羽淨定
之二行有相隨神護景雲元年二月十日化八十六歳元亨釈書
見エタリ又拾遺抄之下諸寺之部曰石動寺ハ在能登国虚空
空藏知徳上人光仁天皇ノ御宇草創其言高岩院御宇勅使
參議藤原景道共是ハ誤りて本帛の不動寺也小方又
泰澄大師天平年中ハ比天下小庖瘡有て王公歸士庶民死ハ
去かひく云大帝泰澄大師小勅方行せし向ハ其瘡ハ
たまり依テ大師勅命改てけ時小堂社佛閣改建ツ故小
天平寺ニ号次新修言本ハ音余坊有し小中比嚴徒改後

の謙信と共カレテ 利長公小敵を元寇の張本殿若院
宝蓮坊万寿院の三雲信海堂に於て 誅戮し其旨と
け其の詩小島有奇其を表徴して今作小五拾八坊神主の家
致より大宮坊と有目持を東林院相勤之然とも其世に
頼願所して北陸道六ヶ田津津印有て年中三夜宛聖来
として勤を以又正丑九月八日禁裏の松田のこ免わす御許
此れ之を捧り也今小諸皇坊院と云ふ小諸藩小成て西遷り
毎二年三月廿六日より大宮公宮の如くして大般若灌讀有て
諸金倉山也其林羅山子明曆二年小書と録記有
道六二宮の登る一里半道に一里也表道田根致と云
城の暇田根村と作て石動山の東山之所口も三三皇殿中
氷見の三皇也

つら日根致のりり石動山に登れり

淋一乃小男回極る 山田、那

又二ノ宮の登中氷見(城)の荒山越し小六里其田小世山村
つら日根中も小石動山天漢石此三の二山にて有至て
大石中一山石也

又井田村之末村原に小村治所とい百姓の家は後小舟山
として小山有其根小者石の唐徳のりり城小舟山
有として今も多一人有す又水白村塚有平相國清殿の末
子三河守知教の塚に小舟と記あり也又小田中村に近し
此塚小新聖の龜塚として有此塚の塚に小舟と記あり也
一も此塚に小舟と記あり也又小舟と記あり也
記に也いし小田中の里小入凡近に小舟の子小舟と記あり
老りの夜不足の復た々々をとて記あり善善徳の上小
卒く意く家供して唐(海)に一国の王となすし

三夏元と推して又此御方の縁起は立派に
感後野小、それなりぬ、彼は御所より
奉り何れ共々、むいひの御座り、入致き、早しく唐土へ
其比唐土、亦有国王、小娘宮に、是、小隣、王太子、
定く、所位、改讓、人、教、多、取、し、う、り、一夜、の、焚、け、し、て
命、全、く、ハ、た、り、後、小、天下、小、筋、い、ら、ん、共、り、と、し、
此、宮、に、繁、く、立、美、也、小、必、所、位、じ、つ、人、一、者、ハ、此、王、位、と
命、の、有、く、こ、れ、こ、し、中、共、ら、し、彼、太、師、又、美、の、者、は、
禁、ん、し、是、こ、ら、む、帝、收、ひ、而、衣、被、改、次、せ、深、田、
小、川、は、も、せ、娘、宮、小、ま、見、一、連、理、の、旗、の、上、小、後、時、異、感、也、
深、く、泣、ん、と、ん、ん、小、牙、有、て、是、は、嘆、が、れ、大、益、也、の、力、使
亦、い、た、小、う、ら、れて、彼、女、前、て、後、小、ハ、コ、ら、ら、ん、し
是、正、月、十、日、對、齋、在、の、因、縁、と、や、夫、が、此、聖、の、賢、識、也、

終、小、位、は、昇、太、子、も、教、多、出、來、り、と、ん、妻、老、の、後、す、し、
古、々、や、を、一、かり、けん、再、ひ、ゆ、ま、の、る、と、彼、叙、言、小、祈、り、小、
或、時、酒、多、小、出、り、小、大、キ、成、花、見、く、申、と、さ、す、帝、是、小、
平、元、え、小、田、中、此、里、小、是、乃、角、く、宣、小、明、也、上、の、名、小、社
が、建、く、下、の、氏、水、と、そ、又、四、五、丁、上、の、小、小、彼、叙、言、堂、有、又
前、の、田、の、中、小、二十、間、計、成、成、秋、の、塚、也、穡、小、共、給、故、小、言、也
是、種、火、似、さ、り、此、塚、の、塚、人、を、こ、近、年、改、作、の、公、人、と、言、
田、之、と、て、已、久、經、又、小、塚、の、半、を、山、前、に、り、こ、し、す、又、公、義
乃、其、後、並、た、ら、ん、と、し、きて、お、し、と、し、又、い、家、具、計、不、思、及
亦、て、い、受、や、ら、ん、し、又、今、小、塚、を、り、強、り、者、子、家、也、決、小、
亦、不、代、才、房、後、親、王、塚、の、前、に、陣、取、跡、也、ト、い、塚、の、事、なる、
穡、希、代、の、古、跡、也、と、を、ふ、も、之、れ、と、云、の、若、し、存、す、と、
と、い、も、と、ん、一、所、之、也、と、い、言、に、其、之、怪、し、と

おろしき流れあり

百代と、おろしきしよのさけ塚の

文庫

をゆし久あ若ありありあり

又土橋村に近し新橋とて山判の双載の百姓あり

高島

二宮の一里下丁なる寺宇定地蔵
今も寺とてあり百代汁のわん

け村高島十裏のれ不常山寺とて寺ありし小退治して
今も一丁寺あり世も併落かとも寺方小坊僧小僧を
観音とて又同く之れ不常山村あり谷村とて寺
あり八丁余山とて寺あり観音六所運送の儀あり
又酒井村洞谷山永光寺に從多拾下山八丁寺あり二
拾石下方一里洞谷山高島用基也後醍醐天皇に勅額あり

今小勅使の勅使あり其外法堂建並し洞谷深亦小
水路の潮水沙々々洞谷の靈地ありとて境内廣く十塚の
宗地あり二三丁奥洞谷の座標石とて大石あり洞谷山和宮城
をめぐり五用山の坊方羅漢影向樹とて大木あり又宝行あり
中おし林小堂山原の摩那丈人山青あり外一宗五人の用山の
小舟あり燃和尙依准の時救害ありし子女の髪血刀木あり
又境内小十塚あり

- 掛鞋履 ウラケイカ
- 鳥石谷 ウセキヨク
- 勝蓮峯 シケンホウ
- 路傍嶺 ロバウレイ
- 集雲峯 シユウウンホウ
- 埋死谷 ウイシヨク
- 巫女原 ウメコハラ
- 栗生原 クリウハラ
- 運水峯 ウンスイホウ
- 飯盛塚 イモリツツカ

右十塚小堂山和宮の一塚毎小詩頌あり畧す中おし十塚也
頌文あり記入

洞谷山中存十境永光勅外揚仕名

暖帳下對江轉 運水牽頭見月明

巫甘原何人也 障 粟生師上佛檀生

掛鞋樓樹作善席 理死園丘庭法城

烏石溪邊相見舊 榴荷林際道風聲

集雨涼處龍蛇夏 向飯盛塚誰更耕

又嶽山相傳每朝以寺の勤役信ひ惣持す(行の勤りの也

其通ひ路古道迄て所り此山中より先と詠ふるよは

酒井村の楳比の如き(指三里より每朝通ひ信より不白祭

とある事なり

我宗同念(登りし時寺中小知の傍をせり
其の如く是れ送らぬわたり 女良花の傍をせり
にぬしてゆめいりこけり 小水汁もあふり
人小可るといふ 適宜の古奇を云ふ事なり
河内はつら 傍のんや 女良花 文解
わく戯念 一一とれん

又中川村近 太皇太后 村家公御墨所双戴の表り

又菅原村天満宮の御社願礼拾俵五拾俵の御後村列南

家(拾俵宛神王二人拾俵)の御社願礼

大社願の如く其れ是也

利家公其後合我御勝利は社の瑞徳より社頭御建立

り社頭等と小奇附あり申元來菅原の姓は初め始し

こ(りは村行長とく 利家公御墨所双戴者なり

飯山

高島の一里十八丁 中より四丁又恒の三丁又
人足二十丁又 赤坂八丁村也

飯山川のりば川源の谷中氷見庄恰田村打流の流せり
羽喰屋(入札

又白瀬村の公願より 南の谷川よりは村豊財院の寺源宗

つらぎ寺 山相向永光寺 奥山石上に座禪の坊あり白楓
小く仕奉る白楓敷百年以前住し相向の法味依り
佛果得しころん別堂山相向は中一申は建立して白楓林
豊蔵院の末代、智藏住持下中ふし同山石の目見
相向の血書の般若經六百卷方同血佛の三尊方則其觀念此
小方は硯小刀に由り方畧ス希代の宝釘誠り智藏
住の末代同相向地又福水村飯山川の河上小方は川中
金輪縁の石として掘りけり石の水をとりし
七すなり石上石方丈分の漏出に依り福水の石あり
又鉢伏山は飯山後下あり先ハ未達の城の取手の部
逐げ山と鉢伏山は共い一山相向の神の子成納し
山石は又北地村の氏宮に不動の運文の作なり
又一里山真小石山は小寺跡あり伽藍の礎也

は若小昆沙門の堂あり是も運文の作なり今小吳路
をい山は石山は小石あり大豆石一斗小石あり
又水と山又是も越中氷見へ越り飯山飯山と云
り

子浦

飯山一里十五丁から二十六丁は尾丸
全二十丁又家敷百丁あり

子浦としてあり是は源室達の北条村管轄村也此村の
山より流れて相向の河へ入る也又此子浦の河は火災の
有て文字書留る者志字中此志保令子浦と云
則志字の神社あり又嘉永二年五月平相國末子三
守知教所の軍小村也其時本宮後二里と云
當中新保陣は

沢として古に名は是は越中氷見(發)道行り別見え
上使性還く是は五里余なり

又秋谷村進し秋谷の在り人方拾人持持下り同村
小七代つこふ十村役の者なり

は行里村の向小音定り(麻)の事も珍しく
可く取らるる(麻)の流も今一多し
ほしきと文り(麻)せり(麻)信(麻)今(麻)

秋成三(麻)い(麻)秋成(麻)下(麻)よ(麻)麻(麻)の(麻)

又秋成村は是は公以少く(太)道(麻)村(麻)也(麻)然(麻)如(麻)所(麻)
又秋成(麻)の(麻)流(麻)心(麻)を(麻)て(麻)一(麻)の(麻)古(麻)本(麻)名(麻)郷(麻)小(麻)枝(麻)を(麻)麻(麻)西(麻)
ふし(麻)異(麻)名(麻)松(麻)也(麻)是(麻)む(麻)一(麻)流(麻)心(麻)而(麻)凡(麻)俗(麻)の(麻)語(麻)也(麻)誠(麻)然(麻)し(麻)
わ(麻)る(麻)の(麻)松(麻)今(麻)傳(麻)り(麻)く(麻)宜(麻)松(麻)俗(麻)小(麻)と(麻)し(麻)

い(麻)流(麻)心(麻)松(麻)也(麻)

秋(麻)そ(麻)ん(麻)の(麻)松(麻)乃(麻)一(麻)本(麻)也(麻) 文(麻)傳(麻)

又高村としてあり今頃(道)進し是は今頃(家)なりて
拾頃の時は村名して大村(依)て高村(こ)なり

又末妻の城は村の向南にあり七八なり

子浦が今頃一里拾五丁なるに丁(文)傳(九)二九(又)

今(是)二十(又)なり



日山

遠藤正信

